

教育の壁を越えよう

アジア・アフリカ語学院 李 澤羽（中国）

高校1年生の夏休みの時、私は母と中国の真ん中の山の奥にある母の実家へ帰りました。その時、母は「私の小学校を見る？」と言って、私たちは2人で山を登って、約40分歩きました。着いた時、私は驚きました。学校は木造で、グラウンドは泥だらけでした。私の通っているエアコンが付いている学校と違って、扇風機もありませんでした。

母から「この先生たちは、午前は別の所で勉強して、午後は児童たちに教える。プロの先生ではないよ」と聞いた時、私は初めて教育の格差を感じました。ここにいる子どもたちのために何かしたいと思ひ、1カ月間ボランティアで先生をしました。ボランティアといっても、何の資格もない自発的な行動でした。幸い、私は小学生を教えられる知識を持っていたので、とても順調でした。通学路は歩きにくくても、学校は家から遠くても、勉強できてよかったという子どもたちの笑顔を見て、満足感が心から湧きました。

私がこれまで出会った「生徒」たちは、ほとんど同じ学校の同級生でした。皆が同じレベルの家庭環境、同じ教育レベルでした。つい、勝手に皆がこのような教育を受けていると思っていました。しかし、世の中には質の高い教育を受けることができない子どもがかなりいます。豊かな家庭の子どもは代々エリート教育を受けているのに、貧困層の子どもたちは、学校に通うチャンスもありません。また、

同じクラスでも、放課後は予備校に行ける人もいますし、家へ帰って、家事のお手伝いや家族の世話をしなければならぬ人もいます。この状況は、豊かに見える日本も同じです。厚生労働省が公表した報告書によると、2018年日本の子どもの相対的貧困率は13・5%でした。経済的な問題による、教育の格差が次第に大きくなっていきます。このように、最初の小さいギャップから埋められない裂け目になり、子どもたちの間に、目に見えない壁があるようになってきました。したがって、全ての子どもたちに同じ教育の機会を与えるために、教育の壁を越えなければなりません。

では、全ての子どもにも公平に教育の機会を与えることの意義は何でしょうか。

私は、2つあると思います。まず、世界を認識する能力を身に付けるためであると思います。頭を上げると、空は空だけでなく、空の向こうに広い宇宙が存在します。川をのぞけば、水は物を洗う道具というだけでなく、命の源とも言えます。教育を受け知識を得るほど、自分が生きている世界をさらに深く認知することができるようになります。第2に、社会で生きていく能力を身に付けるためであると思います。教育を通じて、社会に役立つ仕事に就き、給料をもらい、自分の生活を維持できる能力を身に付けられます。教育のチャンス全ての子どもにも公平に提供すれば、公平な競争環境が組み立てられます。教育を受けていないので能力がないという状況を消すことができ、人と人の階層、つまりボーダーがなくなります。

高齢化社会において、今の子どもたちは全社会の未来です。経済的に恵まれた子どもでも、貧困の子どもでも、この高齢化社会にとって宝物です。貧困の子どもたちも社会で輝く機会を求めています。もし、何もしないでこのままいくと、豊かな家庭の子どもはさらにお金持ちになり、貧困の人たちの子どもは、貧困の悪循環から出ることができません。このように、教育の格差から、財産の格差、幸せの格差まで、社会の層はどんどん分かれていきます。

では、どうすれば教育のボーダーをなくせるでしょうか。

コロナウイルスのまん延で社会は混乱しましたが、大きな変化も生んでいます。在宅勤務が普及し、テレワークという技術が発達してきています。この技術は仕事に使うだけでなく、教育の分野にも役立てられると思います。全世界でオンライン化しつつ、田舎に住んでいる子どもたちも都市に住んでいる先生たちにリンクでき、それらの子どもたちも質の高い教育が受けられるようになってきました。

そこで、オンライン化の対策が必要です。まず、政府は全ての子どもたちのためにオンライン授業が受けられる環境を与えたり、先生たちにオンラインで授業をすることを奨励したりし、経済や地域などの原因で生じた格差をなくすべきです。また、私たちは留学生として、留学で得た学ぶことの大切さを発信したり、自分たちで公平な教育機会のためのプロジェクトを立ち上げ、自分たちで寄付を集めたりし、貧困の子どもたちを手助けするべきです。

教育のギャップを埋めることはなかなか難しいかもしれませんが、しかし、社会や政府の力だけでなく、私たちも協力して、この現状を改善していけたらと願っています。

